

# ストップ！地球温暖化

## 6月は環境月間です

地球温暖化のような世界的な問題から身近なごみ問題にいたるまで、環境問題は、私たちの日常生活から社会全体の活動のあり方にまで深くかかわっています。

6月は「環境月間」です。環境問題を解決していくためには、毎日の暮らしの中で私たちが環境に配慮した行動を心がけ、実践することが大切です。例えば、地球温暖化の原因となっている二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出や資源の無駄使いなどを抑えるため、エネルギーの使い方を直視してみるなど、身近でできることを始めませんか。

(環境省速報値)

おける日本の温室効果ガスの総排出量は、13億6千4百万トンで、基準年である1990年(平成2年)と比べて8.1%上回っており、議定書の6%削減約束との間には14%以上の開きがあります。

### 地球温暖化とは？

人類が地球で生活できるのは、二酸化炭素などの温室効果ガスによって地球が暖められ、平均気温が15℃に保たれているからです。もし、この温室効果ガスが無かったら、地球の平均気温はマイナス18℃となり、生命は存続できません。

産業の発展に伴い、人類は石炭や石油などを大量に消費するようになり、大気中の二酸化炭素の量は200年前と比べ30%増加しました。

### 温室効果ガスって？

これからも人類が同じような活動を続けるとすれば、二酸化炭素の濃度は現在の2倍以上になり、地球の平均気温は21世紀末までに14℃から5.8℃も上昇するといわれています。

温室効果ガスには、二酸化炭素のほかメタンや二酸化窒素、フロンなどがあります。特に温室効果ガス排出量の排出割合の内、二酸化炭素が全体の94%を占めており、この削減が重要な課題となっています。

### 京都議定書発効

現在、世界の国々が協力し、温室効果ガスを減らすための取り組みを進めています。こうした取り組みの大きな第一歩である「京都議定書」が、平成17年2月に発効されました。日本も議定書において、2008年(平成20年)～2012年(平成24年)の温室効果ガスの総排出量を、1990年(平成2年)のレベル(12億6千1百万トン)から6%削減することを約束しています。

### 身近なことから実践しよう

こうした環境問題は、私たち一人ひとりに課せられた身近な問題です。環境問題を解決していくためには、毎日の暮らしのなかで私たちが環境に配慮した行動を心がけ、実践することが大切です。

たとえば、地球温暖化の原因となっている二酸化炭素の排出や資源の無駄使いなどを抑えるために、エネルギーの使い方を直視してみるなど、環境を守るために身近でできることを始めませんか。



二酸化炭素

## CO<sub>2</sub>削減6つのアクション

エネルギーのムダ使いをしていませんか？

エネルギーのムダ使いは二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出量を増やすこととなります。二酸化炭素削減のために、具体的な6つのアクション(行動)を提案します。

毎日のちょっとしたことが積み重なれば大きな削減効果が期待できます。そのための第一歩は、あなたができることを行動に移すことです。

まずは身近なところから取り組みましょう。

### 冷房は28度に設定しよう

冷暖房の設定温度を1度控えるだけで、大きな削減効果が期待できます。家庭では、人がいない部屋のエアコンをこまめに止めることも大切です。会社などでは、設定温度を変えることは、ひとりでできません。まわりの人たちと一緒に、冷暖房の温度に対する意識を高めるようにしましょう。

また、日差しが当たる窓にはカーテンやブラインドをおろすことで、室温の上昇を抑えられます。また、せつかく冷やしたり暖めたりした空気を逃がさないように、窓やドアはきちんと閉めましょう。エアコンの

フィルターの汚れも消費電力増につながります。機器のメンテナンスにも気を使いましょう。

### 蛇口はこまめにしめよう

シャワーを1分間出しっぱなしにすると、なんと10リットルになります。頭を洗っているときなど、必要のない時にはこまめにシャワーを止めましょう。

また、風呂の残り湯を洗濯に使用したり、節水効果のあるシャワーヘッドなどの機器を導入することも効果的です。実際に使用してみると、それほど不自由を感じるものではありません。

### アイドリングをなくそう

停車や駐車時のアイドリングを無意識のうちに行っていませんか？

特に仕事などで車を頻繁に使われる人ほど削減量も大きくなります。もちろんその分ガソリン代も節約に。限られた資源を、ムダなく、大切に、停車中はエンジンをオフ。習慣づけが大切です。

### E「製品を選んで買う

新しく家電製品を買うとき、ぜひ注目して欲しいのが「省エネ性能」。エアコンや冷蔵庫などは省エネ性能の表示も普及し、購入の際の目安になっています。なかには、年間電気料が数万円単位で違うこともあり、特に古い機器を使い続けている場合、買い替えコストと電気代を比べてみると、愕然とする数字が出ることも。お財布にも、環境にも優しい省エネ製品を選んで買しましょう。

### 過剰包装は断りましょう

買い物の際には専用のバッグをひとつ用意。お出かけの際には、小さく折りたためるバッグを常に携帯しておけば、買い物袋は不要になります。コンビニでも購入した商品が少なければ、手提げ袋が必要か聞かれることがあります。こうした取り組みに積極的に応えましょう。

### コンセントをこまめに抜こう

電気製品を使用していないときに、タイマーなどのために消費される電力が待機電力。その消費量は、家庭の電力消費のなんと10%になることも。使うたびにコンセントを抜き挿しするのが面倒ならば、まずは定期的にコンセントを全部外し、次に使う時にコンセントを入れるようにしてみてはいかがでしょうか。ふだん使わないものほど、抜いたままの状態になるはず。す。

● 問い合わせ 生活環境課 環境衛生係

☎ 23-1134